

【学校における児童の実態】
＜学力に関わる実態＞

- ・基礎的な知識・技能の力がついてきた。
- ・仲間の話を最後まで聞くことができるようになってきた。
- ・自分で計画を立てて、自主勉強をしている子ができるようになった。(84%, 前年度比 10%up)
- ・友達の前で自分の考えを発表することに苦手意識をもっている子が多い。
- ・県学習調査の算数 B 問題の正答率が低い。

＜実態の背景＞

- ・ゲーム機や情報端末器の所持率が高く、長時間使う子もいる。
- ・文章を読み取って考えたり、根拠を基に説明したりすることに苦手意識がある。
- ・宿題として、漢字・計算の練習が多く、文章問題を解いたり、自分の考えを書いたりすることが少ない。

【学校の教育目標】

ふるさとを愛し、心も体もたくましい子
 考える子 思いやる子 たくましい子

自分で考えたり、仲間と意見を交流したりしながら、さらに自分の考えを磨き上げる姿

自分と仲間の立場を大切にし、温かい人間関係の中で認め合う姿

意欲的に運動し、進んで健康で安全な生活に取り組む姿

【研究主題】

基礎的・基本的な学力を活用し、仲間と学びを深め、広げる児童の育成

【市学校教育振興計画の基本理念】

未来に夢と希望をもち、今をひたむきに生きる子どもの育成の実現

【市教育委員会の方針】

- ・安心感の中で、児童一人一人が「分かる」「できる」「のびる」喜びを実感できる指導を通して、生きる力を育てる。
- ・学校の教育目標を具現するため、児童生徒や地域の実態を踏まえた自立的・主体的な学校経営を推進する。

【教科指導】

基礎的かつ基本的な知識や技能、思考力や判断力、表現力、自ら学ぶ意欲や態度の育成を大切に授業実践を推進し、子どもの確かな学力の定着を図る。

- 授業改善
- 指導体制の工夫
- 学習集団づくりや学び方の指導
- 家庭学習の充実

【研究仮説】

算数科を通して、基本的な学び方を身に付ける学習集団づくりを基盤として、既習の基礎的・基本的な知識・技能をもとに、考えたことを仲間へ伝えたり振り返ったりする活動や、授業で学んだ内容の補充問題を充実させた指導を継続して行えば、仲間と学びを深め、広げる児童が育つであろう。

研究内容 1 定着を図る効果的な授業の工夫と改善	研究内容 2 学びの定着と学習集団づくりの工夫
具体的な方途 ① 既習の学習内容を生かし、本時の学習内容とつなげる導入の工夫 ② 本時において児童にどのような力をつけさせるか意識した課題とまとめを明確化 ③ 学びの深まりを実感できる終末の振り返り ④ 授業内容の習熟や発展問題及び生活に活用する補充問題の充実	具体的な方途 ① 問題解決のための「キーワード」を用いて話すことができる指導 ② ペアや全体交流後に、仲間の意見をノートに書き加える指導